

鳥獣保護管理プランナー

間野 勉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

対象鳥獣
ヒグマ

活動地域
北海道

事業内容
行政機関によるヒグマ管理への助言

事業の背景

開発による生息域の減少と強い捕獲の圧力によって、北海道のヒグマは1980年代末には最も個体数が減ったと考えられるが、1990年代以降は個体数の増加とそれに伴う分布域の拡大が進んだ。

近年、人間との様々なあつれきが増大しているが、その要因として、個体数の増加のほかに、過疎と農業経営の大規模化によって農耕地における人間活動が減少したことや、離農によって遊休農地、耕作放棄地が拡大したことなど、人間の社会経済状況の変化に対応してヒグマの行動も変化したことが挙げられる。当初はヒグマ生息地に隣接する農地への侵入があつれきの多くを占めていたが、2010年代以降は農業被害のほか都市市街地への侵入の増加や、これまで生息の確認されていなかった地域への侵入が見られる。

ヒグマによるあつれきは、エゾシカやアライグマによる被害と比較して発生頻度が低く、被害額の経済規模も小さいこともあり、対策は発生したあつれき個々の対症療法になりがちである。しかし、あつれきをもたらす個体の特徴や、発生の機序に対する正しい理解がないと、効果的な対策を取ることができない。特に、それまでヒグマの生息が見られなかった地域では、どのような対処をする必要があるか分からないといった事例が多く見られ、専門家による技術支援が必要になる。

実施した内容

所属する北海道立総合研究機構（道総研）の技術指導の一環として、市街地やこれまで生息情報のなかった地域（例えば離島など）への侵入など、前例が少なく対処が困難な事例について、現地に赴いて状況を把握した上で、管理対応方針への助言を行った。

現地の状況把握



ヒグマのフン内容物から、高茎草本を採餌していることを確認
(2018年6月、利尻町)



足跡サイズからオスの成獣個体であることを確認
(2018年6月、利尻町)



自動撮影カメラで捉えた利尻島上陸個体体サイズによるオス成獣の確認と、撮影時間帯から人間の活動時間帯を避けて行動していることを確認
(2018年6月；利尻町；宗谷森林管理署提供)

管理対応方針への助言

利尻島

2018年5月の利尻島への上陸では、宗谷総合振興局が主催する対策会議の場で、継続管理による上陸個体の行動把握とそれに基づく対応の考え方を提示し、関係機関の合意と連携によるあつれきの未然防止及び問題収束に寄与した。

島牧村

2018年7月から9月に、住宅地や国道、漁港など人間の生活空間に侵入したヒグマへの対応をめぐる問題が起きた後志総合振興局管内島牧村の要請に基づき、村の実施するヒグマ防除対策及び村が策定予定のヒグマ対策に係る計画へ助言し、村のヒグマ対策の推進に寄与した。

野幌森林公園

2019年6月の野幌森林公園への侵入では、石狩振興局が主催する対策会議の場で、ヒグマの危機管理対応の考え方と、あつれき防止のための体制整備について助言し、関係機関の連携による問題の収束に寄与した。

その他

このほか、北海道ヒグマ保護管検討会委員及びオブザーバーとして、北海道ヒグマ管理計画に基づくモニタリングと施策の評価、次期計画策定に関わった。さらに、札幌市ヒグマ対策委員会講師として、ヒグマの生息状況に関する説明と管理対応への助言、札幌市清田区にある北海道開発局国営滝野すずらん丘陵公園のヒグマ対策会議専門家として、ヒグマ侵入防止と侵入時の管理方針への助言、環境省釧路自然環境事務所による知床世界自然遺産科学委員会WG専門委員として、世界自然遺産地域のヒグマ管理及び適正利用に関する助言を行った。



北海道石狩振興局主催の野幌森林公園ヒグマ対策連携会議に出席（2019年6月）